

リーディングDXスクール事業【実践事例】

神戸市立須磨北中学校（神戸市）【指定校】

【取組内容】 ⑤小中連携、有識者の助言による発展的な実践事例の創出（指定校の努力目標として掲げた実施内容）

リーディングDXスクール事業の中で取り組みたいこととして掲げ、実施したことについて紹介する。

①小中学校の連携

目標：小学校から引き継ぎ、生徒の生涯にわたって役立つ情報活用能力を、9年間を見通して育成する。

- ・小中学校の管理職・担当者、教育委員会事務局担当者間でのTeamsによる連携 ⇒小中学校の情報共有の促進
- ・8月小中学校合同研修会を実施（下図参照）⇒小中学校での交流の時間をとり、活用状況の共有を行う
- ・11月研究会（須磨北中学校）、12月研究会（若草小学校）の相互授業参観、学校DX戦略アドバイザー兵庫教育大学大学院森山潤教授の講演 ⇒小中相互の授業から、さらに活用のアイデアを得て、今後の活用の示唆や刺激を受ける



8月小中学校合同研修会の様子



Teamsチャットによる参加型研修

それぞれの学校での様子がわかり、参加者の端末活用への意識の変容が見られる「教員のマインドセットを変えていく」「使える場面でどんどん使っていく」

②有識者の助言による発展的な実践事例の創出

目標：研究者等の有識者の助言を受ける機会を定期的にとり、発展的な実践事例が創出できるような仕組みづくりを行う。

- ・国際大学GLOCOM主幹研究員 豊福晋平准教授に、小中合同研修会講師として「デジタルシティズン教育について」講演を依頼 →「善き使い手を育てる」ことの必要性⇒端末活用の意識が高まる
- ・学校DX戦略アドバイザー兵庫教育大学大学院 森山潤教授に、複数回、視察および研修を依頼 →「端末活用の5step」として活用の示唆を受ける ⇒校務DXの促進
- クラウド活用と相性の良い「授業デザイン」について、様々な端末活用（ジグソー法等）の示唆を受ける ⇒ジグソー法を組み込んだ授業デザインを積極的に導入（国語、社会、音楽 等）



校務DXの促進（Teamsでの情報共有）



ジグソー法を組み込んだ授業デザイン